

「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（中教審初等中等教育分科会）が公開

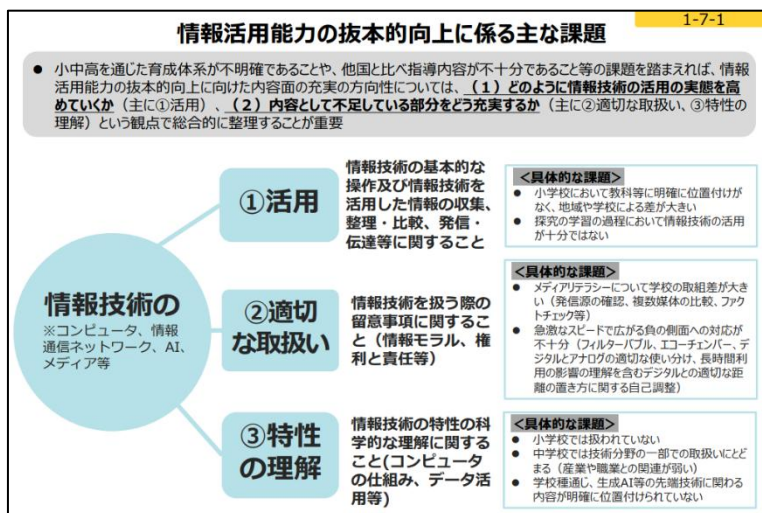
～ 次期学習指導要領に向けて「情報活用能力の抜本的向上」へ ～

「人」台端末の活用が日常となり、子供たちがインターネットで調べたり、友達と考えを共有したり、ICTを使って表現したりする姿も当たり前になってきました。一方で、これから求められる力は、ICTを「使える」ことだけではなく、**集めた情報を比べたり、確かめたり、結び付けたりしながら、自分の考えをつくり、課題の解決につなげていく力がますます重要になります。**こうした中、令和8年10月5日に取りまとめられた「次期学習指導要領に向けた審議まとめ」（以下「審議まとめ」）では、「情報活用能力の抜本的向上」が大きなテーマの一つとなっています。

情報活用能力の抜本的な向上とは？

審議まとめでは、生成AIをはじめとするデジタル技術が急速に発展する中、子供たちが情報技術を活用して課題を解決したり、探究したりする力を育むとともに、偽・誤情報などデジタル社会の負の側面にも対応できるよう、情報活用能力を体系的・抜本的に充実させる必要性が示されています。

授業においては、ICTを操作できるとにとどまらず、**情報を集め、整理・比較し、発信するなどの「活用」、情報の信頼性や権利・責任等を踏まえた「適切な取扱い」、さらに生成AIを含む情報技術の「特性の理解」**が求められています。こうした力を各教科等の学習の中で働かせ、情報を比べたり、確かめたり、つなげたりしながら、自分の考えを形成していく学びへとつなげることが大切です。



「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」より
（中教審初等中等教育分科会）



[「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」へのリンク](#)

「情報活用能力」とは？

～ センター開催研修会から ～

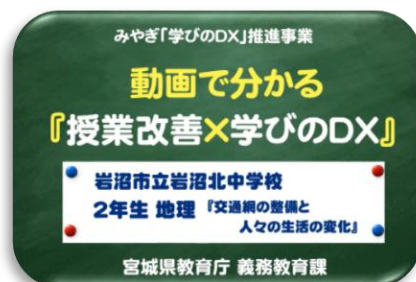
授業の中で「情報活用能力」とは、具体的にどのような姿なのでしょう。そこで、今年度、本センターで開催した「情報教育スキルアップ研修会」での講話を手掛かりに、その姿をひもといていきます。

本年度の研修会で御講話いただいた青山学院大学の益川弘如教授と信州大学の佐藤和紀准教授からは、情報を「得る」だけで学びを終わらせず、それを自分の考えにつなげていくことの大切さが示されました。益川教授は、生成AIを単に「答えをもらう道具」ではなく、自分では持てなかった考えを広げる「知能増幅器」として活用し、**AIの回答を自分の知識や経験、友達のと結び付けながら、「本当にそうなのか」「自分はこう考えるのか」と問い直すことの重要性**を述べられました。また、佐藤准教授からは、得られた情報をそのまま受け取るのではなく、**既存の知識と関連付けたり、「ほかの情報と比べるとどうか」「根拠は確かか」と精査したりしながら、自分の考えを形成していくことが大切である**とお話がありました。情報を比べる、つなげる、確かめる。そして、自分なりの考えをつくる。こうした姿こそ、「情報活用能力」の一つの具体的な姿と言えるのではないのでしょうか。

授業で見る「情報活用能力」を働かせる姿

「情報活用能力」は、実際の授業ではどのように表れるのでしょうか。宮城県教育委員会では、「情報活用能力」を育成する授業づくりの参考となるよう、県内の実践を紹介する授業動画を作成しています。今回は、その中から岩沼市立岩沼北中学校2年生の社会科の実践の紹介を通して、「情報活用能力」の具体的な姿についてみていきます。

この授業では、中国・四国地方について、交通・通信網の発展を視点に、自然環境や産業、人口などを関連付けながら学習を進めています。生徒は、学習の見通しをもち、自分で課題や学び方を選択します。**教科書や端末から情報を得るだけでなく、必要に応じて友達の考えを聞き、自分とは異なる見方や考え方と比べながら、自分の考えを修正していました。**情報を集め、比べ、つなげ、自分の考えをよりよくしていく、そこには、「情報活用能力」を働かせながら学ぶ生徒の具体的な姿が見られます。



[「みやぎ『学びのDX』推進事業」へのリンク](#)

授業でICTや生成AIを「使うこと」そのものが目的ではありません。大切なのは、得た情報を比べ、つなげ、確かめながら、自分なりの考えを形成し、次の問いや問題の発見・解決につなげていくことです。今回紹介した講話や授業実践からも、「情報活用能力」を働かせる具体的な姿が見えてきました。これからの授業では、子供たちが情報を受け取るだけでなく、情報を手掛かりに考えを広げ、深めていく学びを大切にしていきたいものです。

「チョットもっと授業ナビ」で、児童生徒が「情報活用能力」を働かせる授業をつくろう！

「チョットもっと授業ナビ」は、普段の授業での困りごとをICT活用で改善を図るストーリー仕立ての研修動画です。実践的なICTの操作演習も盛り込んでいます。研修動画は12本ありますので、月1回の研修や、会議後の隙間時間での操作演習など、各校の状況に合わせて柔軟に活用できます。その中から、今月は研修動画No.5「互いの考えを見合おう（他者参照）」をご紹介します。



[チョットもっと授業ナビへのリンク](#)

テーマ	研修動画No.5 「互いの考えを見合おう」	
授業の困りごと	互いの考えを知るためにノートを見合わせました。しかし、思ったように友達の考えを見合えていない子供もいます。もっと互いの考えを参考にしながら、自分の考えを広げたり深めたりすることはできないでしょうか？	
ICT活用で改善 ※情報活用能力を働かせる場面	オンライン表計算ソフトの共有機能を活用し、互いの考えを参照しやすい環境をつくれます。友達の考えと比べることで、自分にはなかった視点に気づき、根拠を参考にしながら自分の考えを修正したり深めたりしていきます。ICTで考えを「見せる」だけでなく、他者の考えを手掛かりに自分の考えをよりよくしていきます。	
演習	オンライン表計算ソフトの共有機能やファイルの共有設定を確認します。その後、互いの内容を参照する操作を体験し、自分の授業のどの場面で「他者参照」を取り入れられるかを考えます。	

（編集後記）情報は、集めるだけでは学びになりません。比べたり、つなげたり、確かめたりすることで、初めて自分の考えになります。ICTや生成AIを「使う」ことにとどまらず、情報を活用して考える学びを大切にしたいと思う今日この頃です。

[第55号担当 三浦]